

顔面神経麻痺

コロナのせいで、患者さんは診察室でもマスクをしている。でも、マスクを外さなければ診察にならない患者さんもある。えっ、もう医者の腰が引けているって？

45歳のTさん。4日前に、左の顔がゆがんでいることに気付いた。左目が閉じにくく、口の締まりも悪い。左側から唾液がこぼれる。話しづらいう。末梢性顔面神経麻痺である。目まみや難聴はないが、耳の奥が痛い。症状はそろっていないが、ハント症候群ではなからうか。

ハント症候群は、耳性帯状疱疹とも呼ばれる。末梢性顔面神経麻痺の15%はこの病気だが、原因は帯状疱疹ウイルスである。このウイルスは、体のあちこちの神経節に潜伏している。抵抗力が落ちると、ウイルスが再び活性化して神経炎を起こすのだ。

帯状疱疹ウイルスによる顔面神経麻痺の予後は悪い。さらに、Tさんの麻痺の程度が強いことから、予後不良と思われる。なにより残念なのは、発症から3日以上も経過していることだ。気の小さな医者は、

コロナにかかったみたいに寒気がしてくる。

顔面神経麻痺がウイルスによるものなら、その薬物治療には抗ウイルス薬やステロイド薬が使われる。抗ウイルス薬はウイルスの増殖を抑えるための薬剤であり、ステロイド薬は炎症を抑えるためのものだ。

が、発症3日以内に使わないと期待される効果が得られない。恐れていた通り、Tさんに左の顔は3週間たってもピクリとも動かない。

なぜか、顔面神経麻痺の経過は、男性のほうが悪いようである。仕事が忙しくて、Tさんは言うが、忙しいのは女性も同じだ。

顔に関心の薄い男性は、マスクのせいで顔の麻痺をより意識しないで済みますのか。男性も顔のゆがみに気付いたら早く診察を受けてほしい。が、ま、無理かな？

(石黒修三 しいしへろクリニック・脳神経外科専門医…10/20北國新聞掲載)